

次期岩手県食育推進計画策定部会における議論の状況

6/18 次期岩手県食育推進計画策定部会（第1回）

資料3

No.	委員	意見	対応
1	村元美代 部会長	朝食を食べている割合について、食育の指導があっても、高校生までの間には10%数値が下がってしまう事実があるということになる。どのようにして食育推進計画の見直しを進めるかについては、やはりそういったことを題材にして考えていくことになるのでは、と感じる。	平成30年8月に実施した「岩手県子どもの生活実態調査」の結果では、朝食を欠食する理由として「時間がない」「食べたくない」が多く、規則正しい就寝・起床等の基本的な生活習慣の乱れが影響していると考えられます。また、親世代となる30～50歳代は、栄養バランスに配慮した食事や共食の回数が少ない者の割合が増加しており、親世代の食生活が子どもを含めた家庭全体に影響していることが考えられます。生活環境の多様化により、食生活は個人や家庭で大きく異なることから、対象特性に応じたアプローチと望ましい食生活を実践しやすい環境づくりの取組を進めます。
2	千葉俊之 副部会長	朝食の欠食割合や肥満の状況があまり改善できていないというところだと思うので、そこに対して今までと違った形でどのように取り組んでいくのかという視点は必要であろうと考える。	<p>朝食の摂取等基本的な食習慣の形成は、一義的に家庭の役割と考えます。社会全体で進めている企業の「働き方改革」や「健康経営」等の推進に併せ、家庭での食事時間の確保や誰かとともに食事をする「共食」を重要視した健康づくりを進めることとしています。</p> <p>肥満傾向児への指導の充実を図るため、軽度肥満傾向児に対しては、軽度肥満児童とその保護者を対象とした「岩手型肥満解消ぺっこアプローチ」及び食習慣啓発資料「もうぺっこ噛みましょう！」の活用、肥満傾向児が増加傾向である中高生に対しては、昨年度新たに作成した中高生向け指導用資料「岩手っ子カラダ改革☆LAFF Challenge！」の活用を積極的に推進し、家庭や地域と連携した肥満改善に取り組んでいきます。</p> <p>運動習慣定着のため、1日に60分以上運動に取り組む「希望郷いわて元気・体力アップ60運動」により、学校・家庭・地域が連携した運動習慣形成のための環境づくりの取組を推進します。</p>
3	千葉俊之 副部会長	朝食欠食率についてなぜ「小学校4年生」が対象となっているのかという点である。調査初年度に4年生のデータがあったので、データの連続性という観点から4年生を継続して調査しているのではないか	県では、平成16年度から、小1、小4、中1、中3、高3の概ね3歳刻みでモニタリングしていますが、調査の継続性を確保するため、小6を追加することは難しいと考えます。

		と推測するが、中学校と高校に関してはともに最高学年を選んで調査しているようなので、小学校に関しても6年生を対象にした方がデータの統一性の面ではよいのではないかと思います。																																										
4	千葉俊之 副部長	全国的な肥満率についてのデータは現在持ち合わせていないのだが、岩手県は全国的に見てどれくらい肥満率が高いのだろうか。そういったデータも示していただくと議論がしやすくなるのではないかと。	<p>＜肥満傾向児の出現率（肥満傾向児：性別・年齢別・身長別標準体重を求め、肥満度が20%以上の者）＞は以下のとおりです。</p> <table><tr><td colspan="2"></td><td>小5</td><td>中2</td><td>高3</td></tr><tr><td rowspan="2">H28年度</td><td>岩手</td><td>12.8</td><td>10.4</td><td>11.4</td></tr><tr><td>全国</td><td>8.96</td><td>7.88</td><td>8.40</td></tr><tr><td rowspan="2">H29年度</td><td>岩手</td><td>12.6</td><td>11.2</td><td>11.7</td></tr><tr><td>全国</td><td>8.89</td><td>8.09</td><td>8.67</td></tr><tr><td rowspan="2">H30年度</td><td>岩手</td><td>12.6</td><td>11.1</td><td>11.2</td></tr><tr><td>全国</td><td>9.00</td><td>8.06</td><td>8.77</td></tr><tr><td rowspan="2">令和元年度</td><td>岩手</td><td>13.5</td><td>11.2</td><td>12.2</td></tr><tr><td>全国</td><td>9.57</td><td>8.77</td><td>8.92</td></tr></table>			小5	中2	高3	H28年度	岩手	12.8	10.4	11.4	全国	8.96	7.88	8.40	H29年度	岩手	12.6	11.2	11.7	全国	8.89	8.09	8.67	H30年度	岩手	12.6	11.1	11.2	全国	9.00	8.06	8.77	令和元年度	岩手	13.5	11.2	12.2	全国	9.57	8.77	8.92
		小5	中2	高3																																								
H28年度	岩手	12.8	10.4	11.4																																								
	全国	8.96	7.88	8.40																																								
H29年度	岩手	12.6	11.2	11.7																																								
	全国	8.89	8.09	8.67																																								
H30年度	岩手	12.6	11.1	11.2																																								
	全国	9.00	8.06	8.77																																								
令和元年度	岩手	13.5	11.2	12.2																																								
	全国	9.57	8.77	8.92																																								
5	名郷根久 美委員	10～20代の若い方々にとっては、ネットに掲載されたレシピや調理動画が手本になっている。一緒にキッチンに立って教えるというよりは、早く作って食べさせたいという気持ちが先になってしまっていて、なかなか下の世代に伝えていくことが難しいので、何か岩手版のそういうものが出来れば、とてもいいのではないかと。	<p>食育推進県民大会の新たな取組として、スポーツと食育といった視点での料理教室の開催を予定している。そういった取り組みを通じて蓄積されたレシピをHP等で公開するなどについて検討していきます。</p> <p>また、地産地消の取組として、県のホームページで「いわての食財を使ったヘルシーレシピ集」を公開しています。</p>																																									

6	名 郷 根 久 美委員	「食育」という言葉で囲ってしまおうと、何か義務的な感じがして若い方々も関わりにくいかもしれないが、若い方の心をつかむような、「私も乗ってみようかな」と思わせるアクションが起これればいいのではと考える。	本来、食育は生きる上での基本であってあらゆる活動の基礎となるものであることから、保育所などを対象とした食育普及キャラバンを通じて幼少期から食育に触れる取組を継続するとともに、身近に感じていただけるような工夫についても検討し、普及啓発活動に取り組んでいくこととします。
7	照 井 勝 也 委員	食育のターゲットが「子ども」と「若い世代」に分かれているが、子どもというのは、義務教育及び高校までの世代、という捉え方でよいか。私の経験から言うと、それ以降の世代（大学等）が、一番朝食を食べなくなる世代だと思うので、そこにアプローチがあっていいのでは。	本計画では「子ども」について定義をしていますが、社会通念上「子ども」は高校生以下とされています。 委員の御意見は、今後の取組の参考にさせていただきます。
8	照 井 勝 也 委員	食に関する情報量が非常に多いという現状がある中、正しい情報を対面で伝えるということも大切であるし、例えば県の食育のホームページや、県ならではのレシピがすぐに見られるようにする等、伝達方法の再考が必要ではないかとも感じるので、検討をよろしくお願いいたします。	食育推進県民大会の新たな取組として、スポーツと食育といった視点での料理教室の開催を予定している。そういった取り組みを通じて蓄積されたレシピを HP 等で公開するなどについて検討していきます。

8/6 次期岩手県食育推進計画策定部会（第2回）

No.	委員	意見	対応（対応が必要な内容のみ記載）
1	村元美代 部会長	<p>① 朝食欠食、肥満傾向に係る割合について、具体的にどのような働きかけがあってこの結果になったという点があはつきりしないと、次期計画策定につなげることが困難。</p> <p>② 食事推進マスターの活動も、どう実践につなげるのか具体的な内容を教えて欲しい。</p> <p>③ 食育推進計画策定率 100%維持の考え方は。</p> <p>④ 食生活改善推進員の技術は優れているため、新型コロナ感染症対策も見据え、ウェブ等で情報発信ができるとよいのでは。</p> <p>⑤ 岩手版食事バランスガイドは学生になじみやすく、岩手らしさが出ていると感じているので、残してほしい。</p>	<p>① 事業所の健康経営支援等を通して親世代を含む従業員向けに健康的な食生活や運動習慣の実践を支援することで、副次的な働きかけをしています。</p> <p>「定期健康診断」の肥満度が正常である児童生徒の割合は、運動する児童生徒とそうでない児童生徒の二極化がみられる中で、一週間の総運動時間が 60 分未満の児童生徒の割合が減少しなかったことなど、肥満予防のための運動習慣を身に付けるなどの取組を効果的に推進できなかったことが一因と考えています。</p> <p>また、軽度肥満児童とその保護者を対象とした個別相談指導資料及び食習慣啓発資料の活用の一層の推進、肥満傾向児が増加傾向である中高生に対する中高生向け指導資料の活用による指導の充実に取り組んでいきます。</p> <p>② 内臓脂肪減少のための食事の考え方や具体的運用方法の技術を習得し、その取組を先導する者として「健康的な食事推進マスター」を毎年養成することで各地域や事業所等多くの場所で普及啓発が可能となります。特に、事業所での活動は、今まで難しかった働き盛り世代へのアプローチを可能とし、家庭での食生活改善の実践につなげることが期待されます。</p> <p>③ 市町村の食育推進計画 100%維持の考え方ですが、適切に改定等が行われ、途切れることなく計画が維持されることにより、食育を実践する体制の維持を図るものです。</p> <p>④ 効果的な情報発信ができるよう県食生活改善推進員団体連絡協議会と前向きに協議検討を進めていきます。</p> <p>⑤ 岩手の食文化の中で培われてきた郷土食や地域の食材を利用した岩手ならではのメニューをバランスよく組み入れた「岩手県版食事バランスガイド」に加え、県産食材を材料とした伝統料理等を題材に外食・中食向けにアレンジを加えた「いわての食財を使ったヘルシーレシピ集」の利用促進を図っていきます。</p>

2	千葉俊之 副部会長	<p>① 国の県の推進計画に上下関係はあるのか。また、県と市町村はどうか。</p> <p>② 親子関係にあるとすれば、国の計画次第で県計画の策定し直す必要が生じるのではないか。</p> <p>③ 素案の最終形がどのようなものか分からないと議論の方向性がはっきりしない。</p> <p>④ 県が直接所管する教育委員会等であれば、指導等が可能だが、市町村に対し何か取り組んでほしいということになると、県として支援は出来ても強いアクションは起こせないということか。</p> <p>⑤ 今回の資料は抽象度が高い状態で、情報が不足している。</p>	<p>① 食育計画は食育基本法が根拠となっているもので、県と市町村の計画の間に上下関係等はありません。</p> <p>② 8月25日に農林水産省が「第4次食育推進基本計画の重点課題の方向性（たたき台）」を公表しました。（別添）推進する内容、重点課題等について、県の方向性との大きな祖語は無いものと考えています。</p> <p>③ 今回部会は、資料の形式を変更しました。</p> <p>④ 県教委としては、各市町村教委の様々な取組に対し、支援や助言を行っていきます。</p> <p>⑤ 資料の形式を変更しました。</p>
3	佐々木安彦委員	<p>① 子ども食堂の利用を望む子どもが約半数とのことだが、受け皿が少ないという意味での課題か。</p>	<p>① 「あなたは、無料か安い料金でご飯が食べられる「子ども食堂」があったら行きたいと思いますか。」という設問に対し、収入に関わらず、約半数の子どもが「行きたい」と回答したものです。</p> <p>県としては、全市町村への取組の拡大を図ることとしています。</p>
4	名郷根久美委員	<p>岩手県版食事バランスガイドは色々な方の知恵が集約されている。新しい取組も大切だが、以前から継続しているものの継続にも力を入れてほしい。</p>	<p>岩手の食文化の中で培われてきた郷土食や地域の食材を利用した岩手ならではのメニューをバランスよく組み入れた「岩手県版食事バランスガイド」に加え、県産食材を材料とした伝統料理等を題材に外食・中食向けにアレンジを加えた「いわての食財を使ったヘルシーレシピ集」の利用促進について、引き続き取り組んでいきます。</p>
5	岩舘智子委員	<p>① 新型コロナウイルス感染症の影響の長期化が懸念されるため、食育に関する研修会をウェブ形式で開催して欲しい。</p>	<p>① 11月に開催予定の食育推進県民大会、令和3年6月開催予定の食育推進全国大会においても新たな生活様式に対応した開催方式を念頭に検討を行っています。そうして得られた知見を基に、研修会での動画、ウェブの活用についても検討を行っていきたいと考</p>

		② 新しい生活様式に対応した食生活改善推進員ボランティアの活動継続は、家庭教育分野も巻き込むとよいのでは。	えています。 ② 既に自治会等と連動した活動を実施している団体もありますが、更に拡大できるよう県食生活改善推進員団体連絡協議会と協議検討を進めていきます。
6	佐藤康子 委員	① 食生活改善推進員の活動について、学校現場が多忙なのは承知しているが、もう少しカリキュラムに組んでいただく等対応していただけるとありがたい。 ② 新しい生活様式に対応した食生活改善推進員ボランティアの活動については、早めに検討して欲しい。	① 食生活改善推進員の活動を取り入れた食育について、研修会等において周知していきます。 ② 県食生活改善推進員団体連絡協議会と協議検討を進めていきます。
7	嵯峨潤子 委員	① 朝食摂食については、摂食の有無だけではなくて内容も重要。白米だけ等は問題であるが、どこまで調べられるかという問題がある。	① 朝食の食事内容の調査が実施可能かどうか教育委員会等と連携し、検討していきたい。 また、バランスのよい朝食内容について、食に関する指導等の中で取り上げられています。

10/16 次期岩手県食育推進計画策定部会（第3回）

No	委員	意見	対応（対応が必要な内容のみ記載）
1	千葉俊之副 部会長	① 食の匠制度は非常に有意義と考える。継続して後継者育成に取り組んで欲しい。また、動画保存等も検討願いたい。 ② 岩手県の子どもの肥満率について、県内でも地域差があり、沿岸地域で高いと認識している。現在も肥満予防の取組を行っているにも関わらず、成果が上がっていないのが課題であるが、要因分析は実施しているか。	① 食の匠の技を次世代に継承するため、継続的に後継者育成を行っていきます。また、郷土料理のレシピ収集や動画等による技術の保存を進め、ホームページなどを活用した情報発信を行います。 ② 定期健康診断集計結果により、地域ごとの肥満傾向割合は把握し、また、全国体力・運動能力、運動習慣等調査（スポーツ庁調査）も踏まえ、運動する児童生徒とそうでない児童生徒の二極化がみられる中で、一週間の総運動時間が60分未満の児童生徒が減少しなかったことなどが要因と捉えています。 そのため、1日60分以上運動する「希望郷いわて 元気・体力アップ60運動」、軽度肥満児童とその保護者を対象とした個別相談指導資料、食習慣啓発資料、中高生向け

		③ また、要因分析をしたうえで、調査研究的なものを実施してはどうか。	指導資料の活用などにより、体力向上、肥満対策等に総合的に取り組んでいきます。 ③ 調査研究の実施については、予算的な面等から課題があると考えておりますが、千葉先生から情報を御提供いただいた岩手県立大学「地域協働研究」といった大学等と連携した取組を活用できないかといったことを含め、今後検討してきたいと考えています。
2	嵯峨潤子委員	① 来年度に開催される食育推進全国大会では、食の匠の動画を放映したり、郷土料理の展示ブース等を出展し、岩手の食を全国の皆様にお知らせしてはどうか。	① 御意見をもとに、今後の大会プログラムを検討します。
3	照井勝也委員	① 基本理念中、「安全・安心な食べものを選択する力や望ましい食習慣を育てます」とあるが、読み方によっては、安全・安心ではない食品が流通しているともとれる表現である。書き方を工夫して欲しい。	① 現に流通する食品の安全性を否定するものではなく、多用な食品が流通する中で、食に関する正しい知識を身に付け、食に関する適切な判断力を養うことにより、自らの食品の選択によって食品を購買・消費する、又はしないという消費行動を求めるとの趣旨からの記載としています。